

# 授業再開へ検問認める

# 文学部大幅譲歩

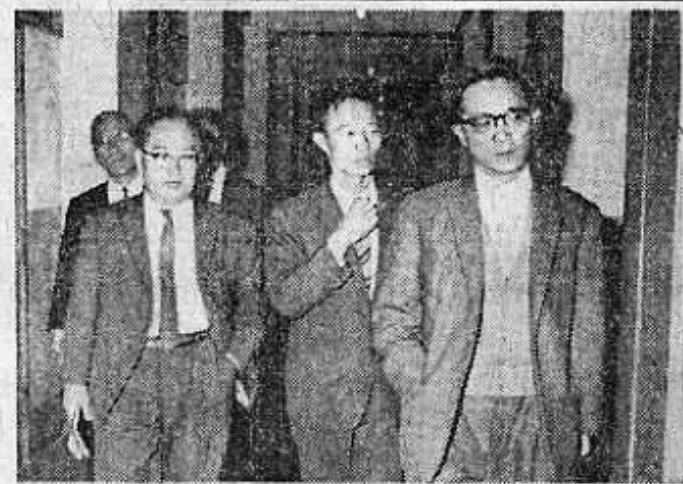
## 東教大 学校側なお注文も



入江東教大文学部長

二十七日文学部（八江副部長）に対し、大学側は承認した。無条件降伏を求めた。教授会は午前十時から午後十時までの検問体制を維持する。また、入構時に検問されることになり、現行の検問体制をほぼ全面的に認めている。さらに文学部教員も出陣制で正門前に立ち、入構証をチェックする原状が承認された。しかし、これまでに文学部は検問導入をはじめ大学のとしてきた措置は文学部の了承なしに強行で

9/28 日本経済  
 湾岸移転問題が学内入構時の検問体制是非問題に発展した東京教育大（徳島電機学歴代行）で、



検問参加などを決めた教授会を出る文学部教授(教育大で)

「や」として、申し合わせでは一徹は原則的に事前に各部局間で「今後、検問導入なら大卒生の各一極端することを強く要請し、検問

内の秩序保全についての責任の分担を主張している。さらに学生と大学の協働体制を回復するため、学生の正当な自治活動の承認、構内の表現の自由を確保することを強調している。

この申し合わせ事項に対し文学部側はの入構証を学生全員に無条件に渡すのでは混乱が起るため、検問の検問に文学部教員が立つことを拒否した。検問の是非は何か六六

## 内外から圧力

### 取材ノート

他の大学等の中には学生と教員との対立は深く、もともと文学部を中心とする形勢が対立の中心となつた。

今回の文学部教授会の決定に対し、学生の間には「これは我々も思っていたが、教員側の意見が一に上り正常化への道は近い」といえる。

## 「誓約書」には反対

### 東教大文学部教授会 学部つぶれても…

9/29 廿二 丁

盟約の紛争を繰り返している東京教育大文学部は、十九日、誓約書に反対して、学部再開の条件の一つ、

「学生から誓約書をとる」として、ついで再検問するが、二十八日、誓約書をとることは憲法に抵触する、と、文学部と大学当局との間に深い溝が生まれてきた。

副教授は、誓約書に署名した場合は法廷に持ち込んで大学側と対決することも考えられており、文学部と大学当局との間に深い溝が生まれてきた。

大学側と文学部教授会の対立は、大学側が二月末以来検問隊の学内常駐と入構者の検問を繰り返している点に発展して、第二戦争、化していた。十六日は文学部教授会と学生が検問体制を無視して学内で独自の授業を再開しようとしたが、大学側は検問隊を理由に構内を封鎖し、授業に集まった学生たちを学外に排除するに決めた。両者の対立は頂点に達したかに見えた。

ところが、紛争大学の、検問隊校として坂田文相から大学法の適用を示唆されたことや、「学生